

こだま

第185号
2015. 1

ISSN 0915-8782



金沢大学附属図書館報 “こだま”

<http://library.kanazawa-u.ac.jp/>

CONTENTS

- 医学図書館にプラタナスカフェがオープン ……1
- 「platanus café」でおまちしております ……2
- 第3回金沢大学附属図書館ECO学習コンクール ……4
- 金沢大学附属図書館創作短歌コンクール ……6
- 金大生のための読書案内 ……8
- 手話カフェ
 気軽に手話に親しみ、ろう者と語り合うために ……9
- KULiC-α活動報告／とぼろニュース ……10
- 図書館トピックス ……12

医学図書館にプラタナスカフェがオープン！



10月7日(火)医学図書館ブックラウンジにて、「platanus café（以下プラタナスカフェ）」オープニングセレモニーが行われました。

プラタナスカフェは、学校教育学類附属特別支援学校高等部生徒の作業実習の一環として、営業を開始することになりました。生徒たちはカフェの運営に携わり、週2回手作りのクッキーや各種ドリンク販売の実習を行うことで、社会での実践的なコミュニケーションを学びま

す。利用者の多くは将来医療従事者となる学生で、学習の合間にカフェで一息つきながら特別支援教育への理解を深められる、貴重な場となることが期待されます。

当日は好天に恵まれ、窓からの明るい光が差し込む中、山崎光悦学長、綿引伴子附属特別支援学校長の挨拶に続き、実習に参加する生徒4人が、それぞれ今後のカフェでの目標を述べました。続いてテープカットが行われ、いよいよプラタナスカフェがオープンしました。

その後行われた試飲会で、生徒たちはプレオープニングイベントでの練習の成果もあって、手際よくサービスを行いました。学長を始め、古畑徹附属図書館長ら列席者は、ドリンクを片手に穏やかなひとときを過ごしました。

プラタナスカフェの誕生で、さらにパワーアップした医学図書館にぜひ一度お越しください！

※カフェの営業時間については医学図書館Webサイトをご確認願います。

(情報サービス課医学図書館係長 佐藤幸代)



生徒たちの手作りクッキーはあっという間に売り切れに。

「platanus café」でおまちしております

竹内里保香 学校教育学類附属特別支援学校教諭



学校教育としての位置づけ

学校教育学類附属特別支援学校高等部で目指す生徒像は「卒業後に自分が希望する生活を実現することを目指して切磋琢磨する」というものです。高等部の時期は、学校から社会へ移行するための準備期間ともいえます。生涯にわたる生き方にかかわる大切な時期です。このことを踏まえ、“進路学習”や“就業体験”などの充実、そして、特別支援学校ならではの授業である“作業学習”の改善に、日々、取り組んでいます。「自立的に生きるために必要な能力や態度を育てる」ためには、社会の中でたくさんの人々と共存することが大切であるといわれています。生徒に将来の目標をもって働く力を育むためには、校内資源にとどまらず「社会との相互作用の中で生きる」機会を提供することが大切であるという考えのもと、プラタナスカフェの運営が始められました。

皆様のお力で、生徒たちに新たな学びの場を提供して下さったことに、心より感謝しております。



支援学校の中では「クッキーショップ」に取り組んでいます。クッキーを袋詰めしながら、クッキーを販売しています。昨年6月からは、プラタナスカフェオープンを目指して、事前研修として、コーヒーの販売もしてきました。

platanus caféのスタッフ

カフェで働いているのは、高校1年生から3年生の5名の生徒です。お店にいらして下さったお客様はよく御存じのことでしょうが、まだまだ言葉遣いもたどたどしく、お待たせしてしまうこともあり、大変失礼しております。ただ「笑顔でお客様をお迎えしたい」「おいしいコーヒーをお出ししたい」「大きな声でありがとうございますを言えるようになりたい」…と「お客様を大切におもてなししたい」という目標をもって携わっております。はやく「カフェ」として一人前になり、お忙しい中足を運んでくださるお客様にご満足いただけるよう、スタッフ一同努力してまいりますので、ご愛顧のほどよろしくお願いたします。



スタッフ一同、ご来店、心よりお待ちしております。

platanus caféのメニュー

プラタナスカフェではお飲物とクッキーをご用意しております。4種類のコーヒーと紅茶に緑茶をご用意し、

お好みに応じてお楽しみいただくことができます。コーヒーは金沢大学生協のご協力で仕入れております。

クッキーは支援学校の作業学習グループの一つである菓子工房で焼いた「すずかけクッキー」を取り扱っております。クッキーは6名の生徒が小さなオーブンで焼いており、プラタナスカフェに仕入れることのできる数も種類も限られてしまいます。何度も足を運んでくださったのにお望みのクッキーがなかったり、午前中だけで売り切れてしまったりということもありました。クッキーの種類や入荷についても、改善していきたいと考えておりますので、ご了承のほどよろしくお願い申し上げます。

クッキーとコーヒーをセットした「クッキーセット」もございます。お飲物に、4種類のクッキーが1枚ずつ入った4枚入りのクッキーをお付けいたしております。お飲物はすべてのメニューの中から好きなものを選びいただけます。コーヒーだけではちょっと口さみしい時などにいかがでしょうか。

スタッフからのおすすめ

ベーシックロースト

苦味と酸味のバランスがよく、ブラックはもちろん、砂糖・ミルクにもよく合います。

イタリアンロースト

濃厚な味わいですが後味もすっきりしています。
※ちなみに、炭焼きコーヒーもしっかりとした苦味が味わえます。イタリアンローストよりも、酸味が少なめです。

モカブレンド

おなじみの味です。あまい香りとさわやかな口当たりです。



おまけ

セイロンティー

カップのふたを開けてみてください。とっても良い香りがするんです。

おまけ2

クッキーセット

クッキー4枚とお好きなお飲物のセットです。店頭販売していないクッキーが入っている場合もありますので、ぜひお試しください。

第3回 金沢大学附属図書館
ECO学習コンクール

ECO学習
コンクール 開催!

附属図書館では、地域の小中学生を対象に「第3回金沢大学附属図書館ECO学習コンクール」を開催しました。このコンクールは、子供たちに、環境問題に対する理解を深め、図書館を使った調査に親んでもらうことを目的とするもので、平成24年度から継続して実施しています。

第3回となる今回は、金沢大学の学生が審査に加わり、「アカンサスジュニア賞（学生選定特別賞）」を選定しました。

金沢市、かほく市、津幡町の小中学校から、小学生部門29点、中学生部門19点、計48点の応募があり、審査の結果、学長大賞（各1名）、附属図書館長賞（各3名）、アカンサスジュニア賞（各1名）を決定しました。



表彰式

表彰式は、11月1日（土）に自然科学系図書館で行われました。

古畑徹審査委員長（附属図書館長）による審査結果発表の後、出席した10名の小中学生に賞状・副賞が授与されました。その後、山崎光悦金沢大学長の挨拶、古畑委員長による講評に続いて、受賞者へのインタビューが行われました。インタビューでは、環境問題に対する意識の変化や今後の研究目標などが語られ、和やかな雰囲気の中で式典は終了しました。



なんでも相談会

8月5日（火）に、コンクールに関連した「なんでも相談会」を開催しました。相談会には、地元の小中学生4名とその保護者が参加し、金沢大学の学生と図書館職員から、研究テーマの決め方や調査のコツについてアドバイスを受けました。

参加した小中学生は、各自持ち寄ったテーマについて、本やインターネットを使って熱心に調査を行いました。小中学生に調査方法を分かりやすく教えることは、指導した学生にとっても貴重な経験となりました。



なにを調べようかな？

最近疑問に思ったことや、
気になったことから広げてみよう！

表彰作品一覧

学長大賞



金沢大学附属小学校6年 吉岡知足さん
「続・そら納豆研究 そら納豆で発電しよう!」

昨年の研究を発展させた意欲作です。別の実験で残った納豆から発電というユニークな発想、仮説の立て方・検証の仕方の丁寧さが高く評価されました。



金沢大学附属中学校1年 井上倫華さん
「浅野川の水質からみる環境問題」

書物での調査と観察がうまくミックスされた完成度の高い作品です。実感のこもった文章で、調査を通して浅野川への愛情が深まっていく様子が伝わるところも好評でした。

附属図書館長賞



金沢市立田上小学校3年 相良碧生さん
「牛乳でお皿を作ろう」

キャンプでたくさんの紙皿を使ってしまった経験から、牛乳を使って食べられるお皿を作ろうという実験です。発想・着想のとてもユニークな作品になっています。



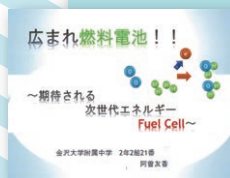
金沢市立紫錦台中学校1年 西尾亮人さん
「涼しさの秘密を探る」

さまざまな方法を試して一番涼しい方法を探るといふ展開がおもしろく、また楽しんで研究している様子がよく伝わってきて、読んでいる側も楽しくなる作品です。



金沢市立西小学校5年 宮野いづ美さん
「地球温暖化防止のために出来ることについて考えよう」

イラストや写真を使い、読む人が分かりやすいように工夫がされています。地球温暖化防止のために、実際に自分でやれることを実践した点が高く評価されました。



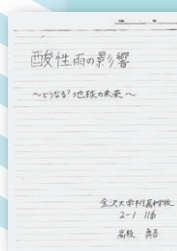
金沢大学附属中学校2年 阿曾友香さん
「広まれ燃料電池!!～期待される次世代エネルギーFuel Cell～」

燃料電池について、さまざまな観点から調査を行っています。各実験を詳しくまとめているとして、いくつか出された燃料電池研究の中でも特に評価されました。



金沢大学附属小学校6年 余余志央莉さん
「燃料電池車は地球を救えるか?」

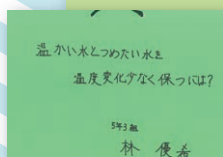
とても丁寧に調査をしているところが、高評価でした。また、実際に企業や工場に取材をするなど、研究への情熱を感じられる作品です。



金沢大学附属中学校2年 高枝真吾さん
「酸性雨の影響～どうなる?地球の未来～」

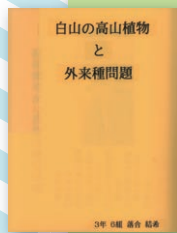
動機から実験へという展開がしっかりとっていたこと、実験が身近なものを使ってされていたことが高く評価されました。

アカンサスジュニア賞



金沢大学附属小学校5年 林優希さん
「温かい水とつめたい水を温度変化少なく保つには?」

災害時を想定し、役立つものをつくりたいという動機がすばらしく、また温度変化を丁寧に記録した点が高く評価されました。



金沢市立兼六中学校3年 落合結希さん
「白山の高山植物と外来種問題」

きれいに統一されたページ構成が読みやすい作品です。高山植物についての丁寧な調査が行われています。

金沢大学附属図書館創作短歌コンクール

きっかけは、昨年度から継続して行っている授業との連携企画（提出課題と本を関連付けて図書館に展示する取り組み）でした。今回は、「中等国語科教育法B」で「KOI NO KIOKU」というテーマで短歌を詠み、そこから想起される本を1枚の紙に表現するという課題でした。これに図書館側で、本の表紙写真や所蔵情報をつけてギャラリーαに展示しました。また、カウンター前では、「万葉の時代に遡る日本の恋の短歌」と題し、中央図書館が所蔵する歌集を展示しました。



こうして「短歌を詠む」雰囲気館内に漂わせながら、創作短歌を募集したところ、すべての学域・研究科、そして1年生から大学院2年生までの幅広い層から、予想をはるかに上回る97首（55人）の応募がありました。

その後、すべての作品を、ギャラリーαに展示し、1人10首までで好きな歌を選んでもらったところ、39人の来館者から230票の投票があり、最も投票数の多かった歌が「みんなの共感を得たで賞」に選定されました。

紙面の都合上、5票以上の得票があった作品のみ掲載しています。図書館Webサイトでは2票以上の得票があった作品とコメントを紹介しています。

http://library.kanazawa-u.ac.jp/clib/?action=common_download_main&upload_id=622



12/19 表彰式 受賞者と審査員の皆さん

また、応募作品を「中等国語科教育法A」で作品講評の“教材”として活用してもらった結果、「学生特別賞」も選定されました。

これとは別に、教員による審査も行われ、6首が入賞作品に選ばれました。

得票数	作品	コメント
12票	クマだっていきものだものおなかすく 食べ物とめ サークルKへ	何か可愛い 今年もクマがたくさん出ましたね... 会いたくないものです。 確かにクマもいきものとお腹がすいてサークルKに来るのがわかります。また、あいだみっつおんな表現が面白いです。 金大らしいですね。 クマ出没が多い2014年。私も似たような事を考えていました。 私もクマの気持ちを想像できました。山のサークルKはなんでも安心ですね。
8票	晩秋も君の側ではちよとだけ いつでも春の匂いがしてる	青春っていいですね。 晩秋なのに、好きな人が側にいるとあたたがさを感じ、どこも春の匂いを感じるといふ秋と春の対比が印象的です。 上手いなというより、ホッとさせる歌だなと思いました。こういうとめ気持ちを春の匂いというんですね。
7票	揺られて寝惚け眼で眺む窓 角間山より想う四季哉	3限目はだいたいこんな感じ。 すばらしいと思いました。
7票	待ち合わせいましたところと言うあなた 手の冷たさはあなたのぬくもり	思いやりを感じました。
6票	バスは混み雨に降られて雪積もる そんな角間が今は恋しい	卒業してから同じ思いをするんだろうな。としみみ思いました。
5票	なにしてる?ぐずぐずせずに踏みだせよ! 人生あとでどうにでもなる。	前向きな姿勢ですばらしい。
5票	夏バテでせっかく体重減ったのに いもくりかぼちめ絶対許さん	秋らしくていいと思った。
5票	俯いて見渡す限り赤紅葉 気づかぬうちに冬の入り口	気付いたら、景色が変わっていった感。
5票	雨降りて地下道歩く君と僕 心の距離も少し近づく	コソコソ...
5票	好きならば本気でそれに取り組もう 半端にやれば残る後悔	頑張る金大生を応援したい! 私のスローガンです。
5票	四回生こたつ出しつ春待つが まだ学生でいたいと願ふ	学生からいかに共感が得られる作品だと思ひ、本作品を選んだ。
5票	生協で店員さんが笑ってる 私出したのWACONカードや	本作品作者と同様の失敗談があり、共感を覚えたため、本作品を選んだ。 おもしろい。 やったことあります(笑) 逆もありません(笑) 金大ならでは!
5票	自転車で坂を下って明日から 何になろうか考えている	自転車で坂を下るさあわやさが出ている。 変身がふわ、と日常に入ってくるおもしろさ 同感です。

最優秀賞

待ち合わせ いまきたところと 言うあなた
手の冷たさは あなたのぬくもり

(学校教育学類3年 本江優実さん)

作者コメント

ことばではなくても、相手の心のあたたかさを感じることで瞬間を短歌で表現したいという思いで創作しました。みてくれた人の心が少しでも「ほっ」となれば嬉しいです。

講評

優しさで温かさ、それに幸福感が、情景とともに伝わってくる。「いまきたところ」ということばだけでも心の暖かさを感じるのに、そのあとで対比的に一度手の冷たさが強く感じられ、さらにそれをもう一度それが「あなたのぬくもり」の証明だと持ってきたことで、冷たさが一気に暖かさに昇華され、歌の雰囲気全体が暖かさ・愛情・幸福感で包み込まれるようだ。「あなた」が二度出てくるのにも愛情を強く感じさせるところがある。二人の笑顔や、手をつなぐことで「あなた」の冷たい手を感じ、それを「私」が手をつないで温めてあげているような姿など、その情景が一気に頭に浮かんでくる、また手が冷たくなるまでの時間も頭に浮かんでくる、空間・時間、いろいろな意味で広がりを感じられる。

みんなの共感を得たで賞

クマだって いきものだもの おなかすく
食べ物もとめ サークルKへ

(国際学類2年 種田桃子さん)

作者コメント

今回は友達と一緒に遊び感覚で作品を作ってみたので、まさか賞に選ばれるとは思っていませんでした。「金大といえば何だろう?」と考えてぱっと思いついたのが、今年何度も出沒した「熊」でした。実際サークルKのそばに現れたということを知ったときはとても嬉しかったです。

講評

投票で一番になった短歌。みんな、実際には熊がサークルKに行くなんてことはないのがわかっていても、こんなにしょっちゅう熊情報があって熊が食べ物なくて困っているんだと感じられる中では、「あってもおかしくないよね」「う～ん、あるある」という感じで投票したと思われる。

学生特別賞

夜空から 吹き荒れ全てを のんだ風
たとえば遠くの ながれぼしのおと

(人文学類4年 藤本望さん)

作者コメント

最近卒論などで帰りが遅くなりがちなのですが、帰り道は色んなことを考えます。そんな帰り道にふと思いつきました。

講評

「国語科教育法A」の授業の学生たちが選んでくれた短歌で、審査会でも高評価だった。空間的な広がりや、上の句・下の句の体言止めが余韻を感じさせ、「たとえば」という表現も意表をついて面白い。一番のポイントは「ながれぼしのおと」で、儚さや繊細さ、そして静けさを感じ、風のすさまじさとの対比感がイメージの広がりを与えてくれていると感じる。意図的にひらがな表記されたこともこうした感じを与えるのに効果的だった。

優秀賞

正しさを すべて背負っているような
白きシャツ着し父を見送り

(学校教育学類3年 佐口萌実さん)

作者コメント

今回このような賞をいただいたことに驚いています。この歌は父と言い争いをした次の日の朝の気持ちを詠んだものです。自分の主張が絶対正しいと思っていたが、父は父なりの正しさを持って私にそれを訴えている。それに気づかされて、自分を思ってくれている父の温かみ、しかしその正義感を鬱陶しくも思う心。2つの相反する複雑な気持ちで、今日も私たち家族のために仕事に出かける父を無言で見送る。そんな光景を詠みました。自分の両親に対して同じように感じている人に共感してもらえたらと思います。

講評

白いシャツを着て謹厳実直で凛としたお父さんの出勤風景が目につかんだ。白と正しさというぴったりした連想の中に、背負う正しさのなかにいろいろなものが含まれているのではないかな、という感じがあり、凛としている一方でお父さんの大変さも感じられた。それをいってらっしゃいと見送る家族の姿も見え、家族の愛情を感じた。

冬の夜 「星がきれい」と言う君に
「月は？」と尋ねた 私に気づいて

(物質化学類1年 三原早織さん)

作者コメント

このたびは優秀賞に選んでいただき本当にありがとうございます。この短歌に触れた人の心に、少しでも何かを感じてもらえたら嬉しいです。

講評

情景が鮮やかに浮かぶ短歌。澄んだ冬の星空を二人で並んで眺めて、「私」の方は気持ちを伝えたいんだけど、うまく伝えられないもどかしさがあった、ストレートに伝えられないから「月は？」と聞きかえす。そこにとても初々しさを感じさせる。気づいてほしいのは、「月は」といったことのように、実際には私の気持ちであることが、うまく伝わってくる。この「月は」の背後には、夏目漱石が「I love you」を「月がきれいですね」と訳して見せた逸話が踏まえられている点も評価が高かった。「私に気づいて」という表現もとてもかわいらしい。

雨雪と雷忘れた東京の友に見せし故郷の冬

(人文学類4年 笹木遥さん)

作者コメント

先日、東京へ進学した友人を久しぶりに訪ねたところ、彼女の「こっちに住んでいたら雨や雷が苦手になった。金沢にいたときは平気だったのね」という言葉が印象に残りました。今年の豪雪を見たら彼女は驚くでしょうか。

講評

雨雪雷という北陸の荒々しい冬の象徴がまず読み手に強い印象を与える。北陸だといわなくとも、これで故郷が北陸であることが非常によく伝わってくる。その上で北陸から東京へ行ってしまう長いこと帰ってこない友人の存在と、「見せたい」という言葉のなかに、帰ってきてほしいという気持ちが込められているように感じられる。「東京の友」という表現もとても印象的で、下の句が「友」で始まることで「友」が非常に強調され強い思いが感じられる。言葉のリズムや強さみいたなものが評価につながった。

今回の取組みは、広い意味での学習支援として位置付けていますが、結果として、多くの方から作品を応募いただき、「創作」「発表」の機会を設けることができたことをシンプルに喜んでます。また、図書館に足を運んでもらいたい一心で来館者向けに企画しましたが、次の機会があれば、Web上での応募受付など、さらなる広がりを考えたいと思います。

(情報サービス課中央図書館係長 押見 智美)



寒河江 雅彦 先生
(人間社会研究域経済学経営学系 教授)

「ドナルド・キーン先生からの贈り物」

平成27年2月2日～ 中央図書館で展示中

教員から教員へ、リレー形式で続いている教員おすすめ図書コーナーは、今回で第17回を迎えました。今回バトンを受け取ってくださったのは人間社会研究域経済学経営学系の寒河江雅彦先生です。

先日、ドナルド・キーン先生の講演会「私と金沢～若き人たちへ～」が金沢でありました。

久し振りにキーン先生の話に拝聴できて楽しかったのですが、大分、お年を召されたなというのが正直な感想であり、今回、講演を聞くことができ、次に聞く機会はないのではないかと少し寂しい思いが不謹慎ながら、頭をかすめました。

図書館から学生の皆さんへの推薦図書を教員が挙げる連載の順番を戴き、図書のリストを最近10年ぐらいで読んだ本から候補を挙げていたところ、この講演会を聞く機会があり、私の推薦図書の浅学さに急遽、キーン先生の挙げた推薦書を皆さんにお伝えしたほうが良いと考えた次第です。どの本も骨太で気合を入れないとなかなか読まない本ですが、宝物のような図書であり、一生に一度、若いうちに読むに越したことはないものをピックアップされていたので、この機会にリストアップしました。それに加えて、キーン先生の英語訳を味わえる一冊として、私の方で本を追加しました。

キーン先生は、日本の古典、現代文学を海外へ紹介したこと、日本文化を海外へ紹介したこと及び日本語による日本文化を素晴らしい切り口で解説しています。その功績は米国籍で初めての文化勲章受章者であることからわかるでしょう（注：2008年当時。その後2012年に日本国籍を取得されています）。30年ぐらい前に、キーン先生の本を数冊読む機会があり、俗な言い方をすれば、ファンになり、今日に至ります。また、今回の推薦本には載せませんが、安部公房先生の作品も好きで、戯曲を含めて、けっこう読んでいました。偶然とは面白いもので、20代前半から後半にかけて、鎌倉に住んでいた頃、よく遊びに行っていた伊豆半島の宇佐美という小さな海岸沿いの町に、よくお邪魔していた小さな料理店がありました。そのとき、2度ほど、ドナルド・キーン先生、今はなくなられた永井道雄先生、なんと安部公房先生が3人で毎年、食事に来られていたところに、私は偶然にも同じ場所で居合わせて、キーン先生と安部公房先生とお会いする機会をもちました。偶然は重なるもので、1980年代の半ばでしたが、知人宅がキーン先生が日本に滞在するときに住まいとされていたのと同じマンションでした。そこは古河庭園を借景

にできる素晴らしいロケーションにあったと記憶しています。20年ほど前、コロンビア大学に滞在したとき、同大学に所属されていたドナルド・キーン先生の研究室を探して、写真を撮ったこともありました。ミーハーな話で失礼しました。話を本の話に戻しましょう。

ドナルド・キーン先生の挙げた本をピックアップします。多くは古典ですが、まずは現代語訳で読んでみてほしいとキーン先生も言われていた。皆さんもぜひ読んでみませんか。

私も遅ればせながら、未読の何冊かを読んでみようと思っています。

	書名 著者、出版事項
1	源氏物語:全訳<全3巻> 紫式部著;与謝野晶子訳,角川書店,1971-1972
2	謡曲集 小山弘志,佐藤健一郎校注・訳,小学館,1997.5-1998.2
3	おくのほそ道 松尾芭蕉著;萩原恭男校注,岩波書店,1979.1
4	曾根崎心中;冥途の飛脚・他五篇 近松門左衛門作;祐田善雄校注,岩波書店,1977.9
5	現代語訳好色五人女 井原西鶴著;吉行淳之介,丹羽文雄訳,河出書房新社,2007.3
6	金閣寺 三島由紀夫著,新潮社,2003.5
7	オイディプス王 ソポクレス著;藤沢令夫訳,岩波書店,1967.9
8	詩学 アリストテレス著;松本仁助,岡道男訳,岩波書店,1997.1
9	マクベス シェイクスピア著;福田恒存訳,新潮社,2010.8
10	ドン・キホーテ <全6巻> セルバンテス作;牛島信明訳,岩波書店,2001
11	人間ざらい モリエール著;内藤濯訳,新潮社,2012.8
12	ボヴァリー夫人 フローベール著;伊吹武彦,沢田間,島田尚一訳,筑摩書房,1965.12
13	戦争と平和 <全6巻> トルストイ作;藤沼貴訳,岩波書店,2006
14	21世紀に生きる君たちへ 司馬遼太郎著;ドナルド・キーン監訳,朝日出版社,1999.11

おすすめ図書紹介文の全文は、展示コーナーの他に、図書館Webサイトの次のページでもご覧いただけます。

http://library.kanazawa-u.ac.jp/index.php?page_id=227

●第16回「哲学者による随筆集（人間社会学域学校教育学系・山本英輔先生）」は医学図書館で展示中です。

手話カフェ 気軽に手話に親しみ、ろう者と語り合うために

青野 透 大学教育開発・支援センター教授
濱田 里羽 大学教育開発・支援センター特任助教

「手話を学びたいと思っているけど、どうやって学べばいいかわからない」という方、おられませんか。一緒にゼロから学んでみましょう。「手話ってどんなの?」「ちょっと関心があるだけなんだけど」という人も大歓迎です。「手話を少し覚えたので使ってみたいという人」も是非どうぞ…というふれこみで、昨年10月末に始まり、授業のある水曜日、12時15分～45分、中央図書館ブックラウンジで行っているのが、手話カフェです。

新しい言語を学ぶのはハードルが高そうに思えます。でも、手話は違います。日本語の50音に対応させた手の形、指文字といいますが、まずはそれを覚えましょう。何とか言葉を伝えることができます。

去年は6回開催し、もっぱら、この指文字と、簡単な挨拶、自己紹介などを繰り返し行うことをしました。「今日は、あ行～た行、3文字限定指文字しりとりをします」という具合に、楽しく、無理なく、手話に親しむことをモットーにしています。ゲームの後には、「クリスマスプレゼントって手話でどう表現するの?」などというやりとりで手話の単語を学んだりしながら、あっという間に時間が過ぎていく、これが手話カフェです。

企画した私たちも手話歴は半年ほどです。県内の大学間連携で障がい学生支援に取り組む中で、手話を少しでも使える人が増えれば、もっと大学のキャンパス内でろう学生が過ごしやすくなるし、他の学生たちにとっても、キャンパス内のみならず暮らしている金沢の街で、ふと出会うろう者ともちょっとしたやりとりができ、お互いの理解を深めることができるようになって考えました。

ですから、手話カフェは誰にも開かれています。誰にでも利用できる図書館の、そして、誰でもぶらりと来れるというブックラウンジの特徴を活かしてもらっています。金沢大学の学生だけでなく、金沢星稜大学の手話サークルの学生やろう学生にも協力してもらっています。また、毎回のように、ろうの市民の方も参加されています。



お昼休み、ちょっと時間ができたら、いつでも、手話の学びの輪に加わっていただいて結構です。一回だけでも指文字の何文字かはマスターできます。

手話は、音声言語と違って、歩きながらテープを聞いてという学び方が出来ないのです。ろう者の手の動きと顔の表情を見て覚えて、何度も真似をしないと体に覚え込ませるのが困難です。自学自習ではなく、手話カフェなどで、みんなで教え合いながら、文字通りアクティブ・ラーニングに最適な言語です。

ろう者の手話は見ているとほれほれします。手、指、顔そして全身の動きで、その時限りの流れるような美しい空間が生まれます。皆さんもそんな体験を一緒にどうぞ（年度内は、2月4日が開催最終日です）。

手話カフェは、文部科学省大学間連携共同教育推進事業「学都いしかわ・課題解決型グローバル人材育成システムの構築」の一環として、中央図書館ブックラウンジで開催されています。

中央図書館

KULiC-α 活動報告

2014年8月～12月

オープンスタジオでの活動

ワークショップ、セミナー等の開催

- 10月27日～10月29日
「卒論・レポートのための資料の集め方」
講座
- 12月15,16,18日
レポート作成基礎講座



ブックラウンジでの活動

ブックラウンジでのイベント

- 8月7日～8月8日 とぼらトークショー ※詳細はp.11をご覧ください
- 10月22日, 11月19日, 12月17日 ビブリオバトル



ギャラリーαでの展示

- 8月18日～8月29日 企画展「ART MUSEUM?」出張展示(資料館)
- 10月9日～11月6日 短歌で詠む恋の記憶～
記憶からたどる物語：学生課題発表展
- 11月7日～11月14日 特別展「超然」出張展示(資料館)
- 11月18日～12月2日 創作短歌コンクール作品展示
- 12月10日～12月19日 みんなで繋ぐシリア展(学生個人展示)



図書館学生ボランティア とぼらニュース

とぼらメンバーが副学長表彰を受けました

1年生のときから4年にわたり、学生の目線にたったイベントや展示の企画などを通して、図書館活動をサポートしていただきました。その活動が、高く評価されたものです。



この度は、副学長表彰をいただくことができ、驚くとともに大変うれしく思っております。今回受賞できたのも、とぼら担当の図書館の方々や、とぼらで一緒に活動してきた仲間の支えがあったからこそと感謝しています。本当にありがとうございました。

思い返してみると、とぼらに入ってから、貴重な体験をすることができました。図書館におすすめコーナーを作ったり、選書をしたり、書店に本を選びに行ったりと、いろいろな活動をしました。

特に印象に残っているのは、映画鑑賞会の企画です。私は、映画を見ることは好きな方ですが、「誰かに見てもらいたい映画を選ぶ」という経験がなかったので、とても新鮮でした。

映画を選ぶにあたって図書館の映画ブースを見たのですが、知らない作品が多く、作品を選ぶ段階から難航しました。作品を決めた後のポスター制作も大変でした。どういポスターを作ったらよいものかと悩み、いろいろな人に相談したり試しに作ったものを見てもらったりしました。そうやって何とか運営しきった映画鑑賞会は、とても思い出深いものになりました。

これからも、とぼらの活動の中で得たものを活かし、頑張っていきたいと思っております。

(機械工学類 太田 智)



とぼらトーク in オープンキャンパス開催

8/7~8/8のオープンキャンパスにおいて、とぼらのメンバーが、学生生活をテーマにトークショーを行いました。とぼらメンバーの一日を例に挙げ、文系・理系の違いや講義内容、専攻といった学業面から、サークル活動、一人暮らし、アルバイトといった入学後の生活まで幅広く紹介。当日は立ち見も出る大盛況となりました。



とぼらから一言!

私はトークショーでプレゼンターを務めさせていただきました。

来てくれる高校生の皆さんに何を伝えればいいのか、自分が高校生の時に思っていたことや大学に入って考えるようになったことを思い返しなが、とぼらの皆で話し合いを進めました。

当日は高校生やその保護者の方が思っていたよりも真剣に話を聞いてくださったので、頑張って準備したかいがあったと嬉しく思いました。

できれば来年もまたオープンキャンパスでイベントを行いたいと思います。
(人文学類 田村 美由紀)

想像していたより数多くの高校生、親御さんたちが見に来てくれました。ひとりで看板を持って人ごみの中を練り歩いた人知れぬ努力が報われたのだと、僕はそう信じています(笑)

昼食を食べながらの人、熱心に話を聞く人、いろんな人がいました。自分が将来行くかもしれない大学ということで、どきどきしたり、不安に思ったり、オープンキャンパスは特別な一日です。今回のとぼらトークショーがそんな一日の一助となっていてくれたら嬉しいです。(人文学類 武藤 暢秀)



テーマは学生生活!



立ち見もできました!

雨で足元の悪い中、多くの生徒さんとその親御さんがとぼらトークショーを見に来てくださってありがとうございました。

生徒さん達の、来年からの大学生活に思いを馳せつつトークやスクリーンに真剣な眼差しを向ける様子が印象的でした。

トークショー目当てでなくとも、ほんわかふえ内であることから、食事をしながら気軽にこちらの話に耳を傾けてくださる方も多かったと思います。

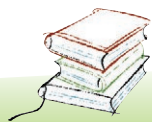
来てくださった方々には、他ではなかなか聞けないような気軽に率直な学生生活の話題を提供することができたのではないのでしょうか。
(人文学類 高橋 こはる)

「とぼら」は
金沢大学図書館
学生ボランティア
の愛称です。

図書館をもっと
学生が楽しめる
場所にするための
企画・運営を
行っています。

[今期の活動]

- ・8月7日~8月8日 とぼらトーク in オープンキャンパス
- ・10月16日 とぼら 副学長表彰
- ・10月14日, 11月12日 とぼら選書



図書館

トピックス

8/7~8 オープンキャンパス2014
サマーアドベンチャー 中央

恒例の図書館オリエンテーションを行いました。参加した高校生の皆さんは、大学図書館の雰囲気と参加賞の「ほんわかふえ。」のメニューを味わっていました。

* 両日とも、とぼらによるトークショーも行いました。詳細はp.11へ

8~9月 ECOへの取り組み 全館

- 8/6~9/19 石川県クールシェアに参加
- 8/23~24 いしかわ環境フェアでパネル展示

夏季休暇期間中、中央図書館、自然科学系図書館、医学図書館をクールスポットとしても開放しました。また、石川産業展示館で開催された「いしかわ環境フェア」では、ECO学習コンクールや、大学や図書館の環境への取り組みを紹介しました。

11/1~2 医学展で貴重書展示 医学

医学部記念館資料室が所蔵する「ドドネウス和蘭草木誌」や「解体新書」等を、医学図書館のブックラウンジで展示しました。来館者は、金沢大学の前身校から引き継いだ貴重な資料に見入っていました。

11/12~13 第8回ブックリユース市 中央

あいにくの天候で、急きょ館内での開催となりました。初回約800冊、途中、1時間ごとに200冊追加し、1日の展示冊数は1,200冊でした。どの回も大盛況で、学生、教職員からいただいた図書1,659冊が再利用の道を歩みました。



11/14 防災訓練 中央



大規模地震を想定した“全員参加”の防災訓練を実施しました。今年度、学内で学生が参加する訓練を行ったのは図書館だけでした。ご協力いただいた皆さん、ありがとうございました。

11/21 感謝状贈呈式 中央

本学卒業生で、文化庁芸術祭賞等多くの賞を受賞した尺八奏者・故石垣征山氏の作曲作品(CD, 楽譜)をご寄贈いただきました。これに感謝し、山崎光悦学長から、同氏の夫人であり、箏奏者でもある石垣清美氏へ感謝状が贈られました。

同日に開催したミニ演奏会では、石垣清美氏のほか、金沢大学琴尺八部のOB/OG及び現役部員が石垣征山氏作曲の「竹吹く」などの曲を演奏し、聴衆は箏や尺八が奏でる音色に耳を傾けていました。



講習会

- 9/19 EBMR講習会 医学
- 9/25 大学職員のためのレポート作成基礎講座 中央
- 10/8 EndNote/ Web of Science講習会 自然科学 医学
- 10/20 UpToDate講習会 医学
- 10/24,27,29 留学生オリエンテーション 中央 自然科学
- 11/21 日経テレコン講習会 中央

今期は、外部講師を招いての講習会を多く開催しました。

資料展示

中央図書館

- 特別展示「超・過去問」(7/23~8/8)
- 万葉の時代に遡る日本の恋の短歌(10/9~11/6)
- ミニ展示「2014年ノーベル賞受賞者の著作とその関連本」(10/17~12/10)
- いざ、就活(就職支援図書館)(11/10~12/4)



自然科学系図書館

- 企画展示「宇宙」(10/1~10/31)
- ECO学習コンクール入賞作品展(11/4~11/22)
- 企画展示「リクエスト購入図書」(11/25~12/22)



編集後記

今年も金沢はすっかり雪景色となりました。風邪をひかないように、暖かくして過ごしてくださいね。

さて、こだま185号では、医学図書館にオープンした「platanus café」を取り上げました。温かいコーヒーとおいしいクッキーでほっと一息つける、かわいらしいカフェになっています。

また、ECO学習コンクール、短歌コンクール、手話カフェ、とぼらトークなどのイベントを紹介しました。図書館では、これからもさまざまな企画を行っていきますので、ぜひ気軽に参加してみてくださいね！

広報委員会メンバー

村田勝俊 野田晶子 松田真樹 川井奏美
新家左希子 香川文恵 多田千紘 押見智美

金沢大学附属図書館報「こだま」第185号

平成27年1月31日発行 発行：金沢大学附属図書館

編集：広報委員会 印刷：株式会社 橋本確文堂

〒920-1192 金沢市角間町 TEL：076-264-5200

E-mail：etsuran@adm.kanazawa-u.ac.jp

*この印刷物は再生紙を利用しています。